



# 平成 29 年度 徳倉小学校区 第2回地域コミュニティ連絡会のまとめ



11月24日（金）に開催された「平成29年度徳倉小学校区第2回地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。当日の発言や意見をまとめた資料ができましたので、送付いたします。（三島市のホームページにも掲載しています）

## ■開催概要■

日 時	平成 29 年 11 月 24 日（金） 19:00～20:45		
会 場	北上文化プラザ		
参加団体  (24名)	幸原町自治会 徳倉第2町内会 徳倉第3町内会 徳倉第4町内会 徳倉幼稚園 徳倉小学校	徳倉小学校 PTA 北中学校 北上中学校 北上中学校 PTA 幸原子ども会 徳倉1丁目子ども会	環境美化推進委員会 体育振興会 消防団第4分団 保健委員会 民生委員・児童委員 三島市社会福祉協議会

## ■次第■

開会・市長あいさつ

- 1 「地域コミュニティ連絡会について」
- 2 「地域の取組み事例紹介」
- 3 「地域の情報を共有しよう」
- 4 「計画案で実践できることを考えよう！」
- 5 「アンケート記入」



## 「地域の情報を共有しよう」のまとめ

今回の「地域の情報共有」では、小学校区の年間スケジュール表や各団体から出された情報を参考にしながら、各団体間の情報を共有しました。

### ○「小学校区の年間スケジュール表」について

同じ小学校区内で活動する団体の行事や活動の予定等を各団体と共有し、日程調整等のために活用していただくことを目的に、本年度から小学校区内の団体等の年間スケジュール表を作成しています。第2回連絡会では、第1回連絡会後にいただいた予定等も追加して、参加者に配布しています。

### ■主な情報共有の内容

団体	情報の概要
徳倉第3町内会	・竹を切って来て、歳末助け合い用の募金箱を作りました。これを使って募金集めをしています。
徳倉幼稚園	・職員だけで道路にはみ出した桜の木を切っていたところ、通りすがりの人が切ってくれた上に、処分までしてくれました。ありがとうございます。 ・地域に開かれた幼稚園にしていきたいです。
徳倉小学校	・12/1に徳倉小まつりを開催します。子どもたちがクラスごとにお店を開きます。ぜひ遊びに来てください。
北上中学校	・11/25にオープン参観と「豊かな心を育てる会」を開催します。地域の方もご参加ください。 ・盆踊りやお祭りなど、地域の行事で中学生が活躍する場を作っていただき、ありがとうございます。 ・学校のブログや回覧物を見ていただくと、学校の様子がわかると思います。ぜひご覧ください。
北中学校	・地域に貢献していきたいので、協力してほしいことあれば教えてください。
体育振興会	・10/1の校区運動会にご参加いただき、ありがとうございました。しかし、校区運動会の参加者が減少しています。ぜひ協力して下さい。 ・小学生主体のトリム教室を開催しています。運動といっても遊び要素が多いので、気軽に参加してください。
消防団第4分団	・12/3の4町内合同避難訓練をお手伝いします。ぜひ、ご参加ください。
三島市 社会福祉協議会	・三島市から受託し、「生活支援コーディネーター」の役割を担っています。 ・高齢者のサロン等の“居場所”づくりに力を入れています。 ・地域の困りごとの相談も受け付けますので、お気軽にご相談ください。

# 「計画案で実践できることを考えよう！」のまとめ

## ■旗揚げアンケートの結果

「きずながつくる協働の取組み計画案」に掲載されている取組みのうち、昨年度第2回連絡会で投票数の多かった取組みの中から、参加者自身が話し合いたいテーマを旗揚げアンケート方式で把握しました。

	子どもだけでなく、大人同士のあいさつも推奨する。	6
	交通安全教室等を通じ、子どもの交通安全への意識を高める。	8
	子ども会の廃品回収の際、高齢者世帯を訪ね、見守りを兼ねて不用品を回収する。	12

その後、選択したテーマごとにグループを作り、第1回連絡会の意見を踏まえて、グループ別に意見交換を行いました。各グループの意見のまとめは、次ページ以降に整理します。



# 子どもだけでなく、大人同士のあいさつも推奨する。

目的 ●あいさつをすると気持ちよくなるから ●地域住民同士のつながりをつくるため。顔を知るため ●見守りや防犯に役立つから

## 校区のあいさつの現状は？

### 全般

- あいさつできる
  - ・スクールガードは安心して挨拶してくれる。ハイタッチもしてくれる。
  - ・徳倉小の子どもの中には、私が庭にいと通りがかりに背中越しに挨拶してくれる
  - ・親と一緒に大人が挨拶すれば安心して子どももする
- あいさつできない
  - ・「あいさつしろよ」と子どもに言ったら、「大人もしてねーじゃん」と言われた
  - ・家庭内でも挨拶が少ない
  - ・子どもが挨拶してくれない(知らない人にはダメ)

### 大人同士

- あいさつできない
  - ・交通安全などの街灯啓発活動中なら、不特定多数の方に声をかけることはできるが、その帰り道にすれ違う知らない人には声をかけられない
  - ・あいさつをしてくれない

## あいさつを推奨する際の考え方

- 会釈から始める
  - ・人とすれ違う時に会釈するだけでも雰囲気が変わる
- 忍耐強くやる
  - ・あいさつが返って来なくてもめげない
  - ・子どもはあいさつしたくないではない。大人はあきらめずに
- 子どもに見られている
  - ・安易にあいさつだけすればいいというものでもない。子どもは大人を見ている
  - ・子どもに尊敬できる大人(あいさつされる大人)になること
- 仲間づくりから
  - ・あいさつ仲間を作ることも大切
  - ・あいさつは仲間意識ではないか
- 山の挨拶のように
  - ・山の挨拶は特別
  - ・山の挨拶について大人まで知らなかった
  - ・山を登る人同志、仲間意識があるので、あいさつし合う

・中学生が幼稚園とのおもちゃの遊びを手伝っている。うまくいっている

## どんな取組みが有効か？（呼びかけだけでなく）

- 自分から進んで声かけする
  - ・誰もが推進委員と思ってやる
- あいさつ運動をきっかけに
  - ・挨拶運動を当番制で始め、普段の挨拶のきっかけとすることも大切
- テリトリーを広げる
  - ・幼稚園までの道路が挨拶のテリトリー
  - ・あいさつのテリトリーを広げる

- 幼稚園の親の世代から
  - ・役員から声掛けに取り組む
  - ・幼稚園の親の世代からあいさつしていく
- 仲間意識のきっかけづくり
  - ・共通の意識を持つこと
  - ・町内で何かできないか
  - ・自分が何者か知ってもらおう(例:〇〇のパパ)
  - ・ピンゴには人は集まるが横の広がりが無い
  - ・会話のきっかけになる仕掛けを考える

●盆踊りの人数を目標に

- ・盆踊りで顔が分かるようになる
- ・徳倉の特徴＝盆踊りを活かしてはどうか

●参加しない人の対策

- ・よく出る人はかぶっている。参加しない人の対策が重要
- ・地域の行事に参加するのは大事
- ・運動会・盆踊りに参加する

参加者を増やすにはどうする？

●中学生がお年寄りのニーズを拾う

- ・何なら参加してくれるかアンケートをとる
- ・自治会費の多くが分担金で無くなるので、リサーチが難しい

# 交通安全教室等を通じ、子どもの交通安全への意識を高める。

目的 ●子どもたちの命を守る（子どもたちがルールを守るため 子どもたちが事故を起こさないようにするため）

## 現在の状況（確認）

### 子どもの意識

- 他人ごと。自己中心
  - 子ども達は「車がよけてくれる」と考えている
  - 「自分が事故を起こすかもしれない」と思っていない
  - 幼稚園児は自分のことと思っていない
  - 横に並んで下校してしまう
- 他人任せ
  - スクールガードがいると、止まらないで通る子がいる
  - スクールガードいると油断して歩く
- 学年による違い
  - 高学年になると、横断歩道で手を上げない

### 交通安全の取組み

- ・スクールガードを毎日やっている
- ・PTA 役員が交通安全指導を行っている（当番制）
- ・小1で交通安全指導、小4で自転車運転指導をしている
- ・行政が道路拡幅して歩行者の安全確保をしている
- ・幼稚園で交通安全教室をしている。
- 指導員から話を聴き、親子で実地訓練をしている。
- ・徳倉には指導員が1人しかいないので、活動できない

### 車のマナー

- ・車のマナーが悪い（町田の方が良い）
- ・夏休みのラジオ体操。通勤時間帯は自動車優先になってしまう（車のマナーが悪い）

## どんな交通安全教室がよいか？

### 主催者

- ①家庭
- ②保育園、幼稚園、小学校
- ③地域（公民館）

### 協力者

- ・警察署の指導員に講習をしてもらう
- ・交通安全教室の内容は、交通安全協会が決める

### 対象者

- ・父兄も参加する
- ・低学年は親から離れ始めて危険
- ⇒低学年を対象とした方が良い

- ・子どもよりも高齢者の方が危険

### ●警察に要望したらどうか

- ・警察に取り締まりを強化してもらわないと効果がない

### テーマ・内容

#### ●ルール指導

- ・交通ルール指導
- ・交差点、狭い道路より広い道路に出る時に一旦停止をして安全確認をする
- ・横断歩道の渡り方。自転車の乗り方
- ・スクールガードとして、一旦停止を必ず習慣づける様に指導していく
- ・左右の確認と手を上げる習慣づける

#### ●危険を体感

- ・自分事として感じる事ができる教室
- ・車の危険を体感できるものを
- ・言ってもわからない。映像で見たり体験したりしないと効果なし
- ・被害者の話を聴き、命の大切さを実感
- ・“ヒヤリハット”

#### ●交通安全と語る会と交通安全教室をリンク

- ・警察に頼ってばかりではいけない
- ・警察官の服装を着てスクールガードをする

## 実現可能な企画案を具体的に作ってみよう！

### ●危険個所のマップづくり

- ・小4の授業で危険個所のマップづくりをやっていた良かった
- ・マップを市や他の人と共有すべき

### ●親の教育も必要

- ・ゲームしながら歩く子どもがいる
- ・スマホ操作しながら歩く親がいる
- ・子どもに車道側を歩かせる親がいる

### ●地域みんなで交通安全教室

- ・地域みんなで交通安全を学ぶ機会をつくる
- ・地域で交通の勉強
- ・目と声を地域でしている

## （交通安全教室だけでなく）普段からやること

### ●大人が手本になる

- ・子どもは大人の行動を見てマネをする
- ・皆でお手本になるように

### ●何度も言い続ける

- ・子どもに対して何度も注意する
- ・具体的に注意することが重要

# 子ども会の廃品回収の際、高齢者世帯を訪ね、見守りを兼ねて不用品を回収する。

目的

●地域のきずなづくり（世代間の交流）

●高齢者の見守り

まずできそうなこと

## 子ども会の廃品回収の現状・課題

### ●今の方法では、見守りを兼ねることは難しい

- ・見守りを兼ねるなら、廃品を外に置いてあることが課題
- ・回収日に家の外に出してもらい回収するが、出してなければスルーするので、見守りにならない
- ・子ども会の回収数が少ないと見守りになるのか？

### ●高齢者の見守りは考えていない

- ・子ども会が高齢者の廃品回収を考えていない。
- ・子ども会の為の廃品回収なので、高齢者の見守りは考えていない

### その他の廃品回収

- ・定期的に庚申堂に集まり、アルミや新聞を回収している。

## 高齢者見守りの現状・課題

### ●個人情報の問題がある

- ・高齢者は自ら発信することが難しい。困っていることを伝えにくい
- ・個人情報保護のため、本人の申し出時だけ訪問するようにしている
- ・高齢者に絞るから、個人情報の問題が出る
- ・引きこもっている方は専門家へ。

### ●高齢者は時間が掛かる

- ・玄関や電話まで時間が掛かる
- ・足が悪くて出るのに時間かかる
- ・SOSの発信さえ困難

## どんな方法ならできそうか？

### ●高齢者のいるお宅の把握

- ・65歳以上の家に黄色のハンカチをかけて、そこに回収に行く
- ・名簿を組単位に作り直して組長が老人を把握する
- ・町内の地図に高齢者宅をチェックしてチラシを配る

### ●御用聞き風に各戸を訪問

- ・子ども会は子どもの社会性を育てるもの。現状では子ども会活動の中で社会とふれあう機会は少ない。廃品回収の時に御用聞き風に各戸を訪問する事で大人と話をする経験をさせたらどうか。大人の様々な反応に子どもも感じる事があろう。
- ・高齢者に常にあいさつ、声かけ、お手伝いをする。

実現可能な企画案を具体的に考えてみよう！

### ●情報収集。気づき

- ・月2回の広報配布の際に子どもたちに協力してもらう
- ・複数の方法で（1つに限定せず）

### ●集まった情報に対する対応

- ・事例：隣近所→民生委員→大家さん

### ●本人から申し出しやすいように

- ・回覧板に困り事を書いてもらう

### ●ヤクルトで誘う

- ・出て来ない人にヤクルト等で誘う

### ●包括支援センターと連携

- ・事例：手紙のやり取り方式・文通
- ・事例：敬老の日に小学生から手紙

### ●民生委員と一緒に子どもも回る

- ・訪問件数が減っている
- ・訪問対象 65才→80才へ引き上げ
- ・65～80才名簿無し

### ●回覧板を回す際に見守り

- ・回覧が回らない→追跡する

### ●敬老会の出欠確認の際に見守り

- ・敬老会への出席者も減っている

### ●回収時の声かけ

- ・黙って持って行かないで声を掛ける。出ていない家に、今日はどうか聞く

### ●広報

- ・募集内容をチラシ等で知らせる
- ・担当者の（民生委員など）名前を知らせておく

### ●サロン・交流

- ・頑固。子ども、親族の世話にならない  
⇒サロンなどを通じて老人の警戒心を解く。
- ・サロンなど子どもとの交流会への出欠
- ・事例：老人会と子ども会合同イベント（ペットボトルボーリング）

### ●いつもと違うという感覚

- ・隣近所の口コミ。横のつながり
- ・毎週のゴミの日の出方による
- ・隣同士の方々に気配を感じる

### ●企業と組む

- ・事例：新聞、牛乳、ヤクルト配達
- ・事例：銀行からの相談
- ・何度も通帳を紛失→認知症の疑い

### ●中学校の協力

- ・中学生に情報を出して支援
- ・玄関先まで荷物を運ぶ